

## 公立病院改革ガイドライン

### 「公立病院改革ガイドライン」策定の背景

近年、多くの公立病院において、経営状況の悪化や医師不足等により、経営環境や医療提供体制の維持が極めて厳しい状況になっています。加えて「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」の施行に伴い、病院事業会計など企業会計を含めて自治体の財政状況が評価されることになるため、地方公共団体の財政運営全体の観点からも、公立病院事業は、一層の健全経営が求められています。

公立病院が今後とも地域において必要な医療を安定的かつ継続的に提供していくためには、抜本的な改革の実施が避けて通れない課題となっており、先月末に、総務省から、各自治体が公立病院改革プランを策定する際の指針を示した「公立病院改革ガイドライン」が公表されました。

### 公立病院改革ガイドラインのポイント



#### 第1 公立病院改革の必要性

- 公立病院の役割は、地域に必要な医療のうち、採算性等の面から民間医療機関による提供が困難な医療を提供すること（例えば①過疎地②救急等不採算部門③高度・先進④医師派遣拠点機能）
- 地域において真に必要な公立病院の持続可能な経営を目指し、経営を効率化

#### 第2 公立病院改革プラン

- 地方公共団体は、平成20年度内に公立病院改革プランを策定（経営効率化は3年、再編・ネットワーク化、経営形態見直しは5年程度を標準）
- 当該病院の果たすべき役割及び一般会計負担の考え方を明記
- 経営の効率化
  - ・ 経営指標に係る数値目標を設定
    - 1) 財務の改善関係（経常収支比率、職員給与費比率、病床利用率など）
    - 2) 公立病院として提供すべき医療機能の確保関係 など
  - ・ 一般会計からの所定の繰出後、「経常黒字」が達成される水準を目途（地域に民間病院が立地している場合、「民間病院並の効率性」達成を目途）
  - ・ 病床利用率が過去3年連続して70%未満の病院は病床数等を抜本的見直し
- 再編・ネットワーク化
  - ・ 都道府県は、医療計画の改定と整合を確保しつつ、主体的に参画
  - ・ 二次医療圏等の単位での経営主体の統合を推進
  - ・ 医師派遣拠点機能整備推進。病院間の機能重複を避け、統合・再編含め検討
- 経営形態の見直し
  - ・ 人事・予算等に係る実質的権限、結果への評価・責任を経営責任者に一体化

- ・ 選択肢として、地方公営企業法全部適用、地方独立行政法人化、指定管理者制度、民間移譲を提示
- ・ 診療所や老健施設、高齢者住宅事業等への転換なども含め、幅広く見直し

### 第3 公立病院改革プランの実施状況の点検・評価・公表

- プランの実施状況を概ね年1回以上点検・評価・公表
- 学識経験者等の参加する委員会等に諮問し、評価の客観性を確保
- 遅くとも2年後の時点で、数値目標の達成が困難と認めるときは、プランを全面改定
- 総務省はプランの策定・実施状況を概ね年1回以上調査し、公表

### 第4 財政支援措置等

- 計画策定費、再編による医療機能整備費、再編等に伴う清算経費などについて財政支援措置を講じるほか、公立病院に関する既存の地方財政措置についても見直しを検討

福島県病院事業は、平成19年3月に「福島県病院事業経営改善計画」を定め、経営改善や医療機能等の充実強化に取り組んでいるところですが、このガイドラインを踏まえて、経営改善に向けた取り組みを一層進めながら、改革プランの策定に向けた検討を行っていくことが求められています。

(ガイドライン本文は世界樹掲示板「病院局からのお知らせ」に掲載しています。)

## トピックス

松下電器産業株式会社は今年10日、10月1日付(予定)で、社名をパナソニック株式会社に変更すると発表しました。社名変更に伴って“National”ブランドは廃止。ブランド名は“Panasonic”に統一されます。



発表によれば、「グローバルエクセレントカンパニー」(同社の定めた数値目標。売上高10兆円以上、うち海外売上60%以上など。)を目指すためには、グループ全活動を結集することが必要と判断し、創業者の姓である“松下”の社名を手放す決断をしたとのこと。

松下電器産業の創業者である松下幸之助氏(1894~1989)は、松下電器産業を一代で築き上げた日本屈指の経営者。松下幸之助氏が確立した「企業は社会の公器」「全ての活動はお客様のために」「日に新た」を核とする経営理念は今も堅持されています。

目的は異なりますが、県立病院も企業。企業経営の成功者からは学ぶことも多いと思います。そこで今回、松下幸之助氏の言葉を一つ紹介します。

『どんなに悔いても過去は変わらない。

どれほど心配したところで未来もどうなるものでもない。

いま、現在に最善を尽くすことである。』



後悔や心配はいくらしたところで何も変わらない。例え失敗したとしても過去を反省し、将来の目標に向かっていま何をすべきか、いま何が出来るかを考え、現在に最善を尽くすしかない。当たり前のことのようですが、なかなか難しいことだと思います。

～ご意見・ご感想をお寄せください～

**親切 信頼 進歩**